

令和3年度 学校経営方針

1 教育目標 校訓「誠実勤勉」「敬愛和親」「積極進取」のもと、新しい時代を主体的に切り拓いていくことができる自立した人間を育成する。

2 校訓と身に付けさせたい資質・能力の連動

《校訓》

《身に付けさせたい資質・能力とその内容》

誠実勤勉

自己管理能力：自らの心や身体を適切にコントロールする力

実行力：自ら目標を設定し、それに向かって確実に行動する力

敬愛和親

協働力：自らの役割を理解し、目的達成のために他者と調和する力

傾聴力：他者の意見や考え方を受け止め、誠意を持って聞く力

積極進取

発見力：様々な事象から疑問や課題を見つけ、何をすべきか考える力

探究力：自ら課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析する力

3 教育目標達成のための方策

(1) 学習指導の充実

ア 現在の学びが、自らの将来や実際の社会と結びついていることを生徒が実感できるような授業、学習活動を実践する。

イ 生徒が自ら学びに向かう力を育むために「学力向上プラン」(別紙)に基づいた学習活動を実践する。

(2) 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す進路指導を推進する。

イ 高校三年間を俯瞰した進路指導の実現に向け、指導の体系化を図り、生徒の進路に向かう意識を一層強化する。

(3) 生徒指導の充実

ア 生徒や保護者等の気持ちを汲み取り、誠意を持って丁寧に話を聞いたりすることで、生徒、保護者、教職員の間の信頼関係を構築する。

イ 挨拶、服装容儀、時間厳守、スマートフォンの使い方等のマナーの指導の徹底などにより、生徒の品性を育む活動を推進する。

ウ 不登校、いじめ、問題行動等の未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応に努め、カウンセリング・マインドによる個に応じた教育相談を推進する。

エ 特別支援体制を推進し、発達障害等に理解を深め、教育的ニーズを把握して適切な支援と指導に努める。

(4) 行事、部活動等の充実

ア 生徒が主体的に学校行事を企画・運営する体験を数多く設定することで、集団への帰属意識や連帯感を醸成・強化する。

イ 部活動やボランティア活動等への積極的な参加を促進する。また、生徒の活動を認め、褒め、コーチングなどの技法で主体性を引き出し、そこで得られる達成感や成就感を味わう経験を通して自己肯定感や自信を育む。

ウ 部活動は、短い時間で全力を集中させるよう指導を工夫するとともに、適切に休養を取ることで最大限の効果を生み出す、メリハリのある活動を目指す。

令和3年度 学力向上プラン

1 重点目標

自ら学びに向かう力を育む。

2 方 策

(1) 基本的生活習慣の確立

学びに向かう力の土台となる基本的生活習慣の確立を図る。

(2) 教育活動の目的の明確化と各教育活動の連動

「なぜ」、「何のために」という意識を常に持ち、学びの目的を明確にする。授業と朝学習、キャリア教育、行事等の指導を連動させる。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の工夫

生徒にとって成就感のある、わかる授業の実践により生徒のやる気に火をつける。

■学習習慣の確立が求められる生徒への指導

(4) 基礎学力の定着

社会での自立に必要な基礎学力を定着させることを念頭に置いた学習指導を徹底する。

■成績上位層の生徒への指導

(5) 進路志望達成に向けて自走する力の育成

進路志望達成は生徒にとって自分事であることを自覚させ、それに向けて自ら目標を立て、自ら実践を積み重ねていく力を育成する。

▼実施上の留意点

・「言われたことだけやる生徒」から、「自ら動き、自ら学ぼうとする生徒(=自走する生徒)」へと意識変革や行動変容を促す。

・挨拶、服装容儀、時間厳守、状況に応じた適切な言葉遣いなどの指導を徹底する。

・各教育活動を連動させるため、年次と各教科、関係部署等の連携を心がけ、認識を共有して具体的な実践計画の策定を進める。
・学びの基礎診断を活用したPDCAサイクルの構築に取り組む。

・ICT 機器を効果的に活用したり、講義形式の授業に加えて、適宜ペアワークやグループワークを実践する。
・「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「主体的に学習に取り組む態度」を多面的に評価する観点別学習状況評価を意識する。

・学ぶことに興味・関心を持たせ、真面目に授業や家庭学習等に取り組む習慣をしっかりと身に付けさせる指導を工夫する。
・必要に応じて、特別講習、個別指導などを実施するとともに、定着しない(できない)生徒がいたとしたら、なぜ定着しないのか考察・分析し、効果的な指導法を工夫する。

・的確な進路情報を提供するとともに、生徒の資質・能力に応じた適切な受験先、受験方法の選択について助言したりして、指導を工夫する。

令和3年度 目指す学校像のキーワード

1 生徒第一

- ①生徒のことを第一に考えて教育活動（学習活動、部活動等）を行う学校。
- ②生徒一人ひとりの理解に努め、気持ちに配慮し、面談等の際は生徒の話を丁寧に傾聴する教員のいる学校。
- ③生徒の安全を第一に考え、校内外の教育活動の場に危険や不具合がないかどうか常に想像力を働かせる教職員のいる学校。

2 授業改善

- ①教員にとって最も大切なのは授業。「わかった！」「できた！」の気持ちを体感させ、学習意欲がかき立てられる授業を実践する教員のいる学校。
- ②高校教育をめぐる環境は常に変化している。最新の授業実践や先進的な取組を積極的に導入し、不断の授業改善を図る教員のいる学校。

3 社会に開かれた教育活動

- ①地域行事・ボランティア活動等に積極的に参加する学校。
- ②地域等の人材を授業に招くなど、地域の人的・物的資源を活用し生徒の可能性を大きく伸ばす学校。
- ③生徒が自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を育むために、学びの場を必要に応じて地域社会にも広げ教育活動を展開する学校。
- ④学校ホームページや広報紙で学校の教育活動の様子を保護者や同窓生に発信したり、報道機関に依頼して報道してもらうことで、魅力を積極的にアピールする学校。

4 働き方改革

- ①教職員が気軽に相談し合ったり、自由に語り合える雰囲気のある学校。
- ②教職員一人一人がお互いを認め合い、自分の気持ちや意見を、相手の気持ちも尊重しながら、誠実に、率直に表現しあえる雰囲気のある学校。
- ③ワーク・ライフ・バランスが適切に図られ、長時間労働とならないような工夫がなされ、過重な労働とならないよう教職員がお互いにフォローし合える雰囲気のある学校。

5 オール青中央・選ばれる青中央

- ①学校教育は教員のみならず、事務部の職員も重要な役割を担っており、外郭団体や地域の方々からも支えられることで成り立っている。このことを念頭においてオール中央高校で教育活動を展開する学校。
- ②中学生やその保護者から「入学したい（させたい）高校」、「部活動・ボランティア活動等に入って活動したい（させたい）高校」として選ばれる学校。
- ③大学等から「生徒を合格させたい高校」、企業等から「生徒を採用したい高校」として選ばれる学校。